

生物多様性とは

地球上には、森林や草原、砂漠、河川など様々な環境があり、そこに多くの生物が生息しており、それぞれの環境に適応した生物が、お互いにつながりあい、バランスを取っています。この生物のつながりの豊かさを「生物多様性」といいます。

私たちの暮らしは食べものや薬、遊びの場などいろいろな面で生物多様性からの恵みに支えられていますが、開発や乱獲、外来種の持ち込みなど人間の活動により「生物多様性」が危機に面しています。

なごやにおいても、市街地の拡大や外来種の侵入などによる身近な生態系への影響、消費活動を通じた生物多様性への影響が生じており、生物多様性の保全への取り組みが必要となってきています。



なごや生物多様性センター

Nagoya Biodiversity Center

住所 〒468-0066

名古屋市天白区元八事五丁目230番地
(地下鉄塩釜口駅2番または3番出口から徒歩5分)

電話 052-831-8104 (平日 8:45～17:30)

FAX 052-839-1695

E-mail bdnagoya@kankyokyouku.city.nagoya.lg.jp

名古屋市公式ウェブサイト

<http://www.city.nagoya.jp/>

なごや生物多様性センター 検索

なごや生物多様性保全活動協議会

<http://www.bdnagoya.jp>



こちらから
アクセスできます



なごや 生物多様性センター



名古屋市環境局

2019年12月発行

センター設立の背景

名古屋市では、都市化の進展に伴い、市街地の拡大や外来生物の侵入などによって生物多様性が失われてきました。一方、自然環境を保全する市民の活動は地道に行われてきました。

2008年から3年間、市民・専門家・行政が協働で市内10ヵ所のため池の生物調査などに取り組みました。その結果、まだまだ多くの在来生物が生息・生育していること、外来生物が著しく増加していることが確認されました。

2010年10月に愛知・名古屋で開催された生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)の理念と成果を継承し、同年3月に策定した「生物多様性2050なごや戦略」を推進する拠点として、2011年9月に「なごや生物多様性センター」を設立しました。

この施設は、廃止した不燃ごみの中継施設を有効活用し、整備したものです。

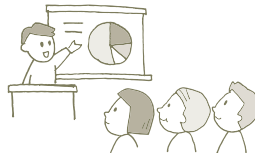
沿革

年月	事業	※なごや生物多様性保全活動協議会との連携事業を含む
2011.9	なごや生物多様性センター設立	
2011.11	大根池(天白区)池干し	
2012.1	ニュースレター「生きものシンフォニー」の発行開始	
2012.1	なごや生きもの一斉調査初開催	
2012.4	ビオでん講座開催(～12月)	
2012.8	なごや生物多様性サマースクール初開催	
2012.11	竜巻池(守山区)池干し	
2012.12	猫ヶ洞池(千種区)池干し	
2013.8	生物多様性カフェ初開催	
2013.11	茶屋ヶ坂池(千種区)池干し	
2014.2	機関誌「なごやの生物多様性」の発行開始	
2014.3	名古屋市全域におけるアライグマの捕獲事業開始	
2014.5	「なごや生物多様性センターまつり」初開催	
2015.3	「名古屋市版レッドリスト2015」公表	
2015.4	レッドデータブックなごや2015公表	
2015.7	植物標本作製講座初開催	
2015.11	生物多様性ユースひろば初開催 (なごや生物多様性センターまつりと同日開催)	
2016.1	レッドデータブックから学ぶ「なごやの生きもの」開催(～2月)	
2017.11	滝ノ水北池(緑区)池干し	
2018.11	戸田川緑地とだがわ生態園(港区)池干し	
2019.9	森林環境譲与税を活用した森林保全体験事業の開催	

センターの役割

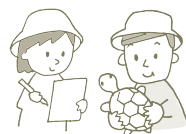
センターでは、なごやの生きものに関する情報を次世代に伝えるために収集・発信を行うとともに、市民・専門家・行政の協働によるなごやの身近な自然の調査・保全活動を推進していきます。

生きもの情報の収集・発信



- ・名古屋市版レッドリスト・レッドデータブックなごやの改訂を行っています。
- ・標本の収蔵、標本作製講座を行っています。
- ・機関誌「なごやの生物多様性」やニュースレター「生きものシンフォニー」を発行しています。
- ・なごや生物多様性センターまつり、生物多様性カフェなど普及啓発イベントを開催しています。

市民と協働による生きもの調査



- ・なごや生物多様性保全活動協議会をはじめ、NPO、専門家等と協働し生物調査、外来種防除等の保全活動を推進しています。
- ・アライグマ、ミシシippアカミミガメ、クビアカツヤカミキリなど外来種の防除を行っています。

連携・交流とネットワークづくり



- ・研究機関や大学などとの相互協力を進めます。
- ・なごや生物多様性保全活動協議会や他の団体などとの情報交流・活動の連携を進めます。
- ・調査・保全に取り組む市民活動団体などの活動を支援します。
- ・なごや生物多様性センターまつり、生物多様性ユースひろばなど多様な主体との連携の場を設けています。

なごや生物多様性保全活動協議会とは

市民・専門家(大学教員など)、行政(名古屋市)の協働で生物多様性に関する調査・保全活動を実施しています。その活動を支える事務局と拠点は「なごや生物多様性センター」が担っています。

運営体制

